

水稲、大豆のカメムシ類の防除について

本年は、早期水稲において斑点米カメムシ類による被害が多発しています。また、大豆においては、昨年被害が多かったミナミアオカメムシの発生が開花期から見られる圃場もあり、カメムシ類の被害が増加することが懸念されます。水田畦畔や休耕田ではカメムシ類の生息場所となるイネ科雑草が目立つので、以下のことに留意し防除を徹底しましょう。

1 発生の状況

1) 水稲

- ①県内の早期水稲全域において、斑点米カメムシ類が広く発生していると考えられ、斑点米による等級低下が多く認められた。
- ②8月上旬の畦畔および休耕田におけるすくい取り調査では、総捕獲数は平年並であったが、一部で生息密度の高い地域がある。種別では、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ類の発生が多い。調査地点あたり総捕獲数：13.3頭(平年15.8頭、前年7.0頭)
- ③水田畦畔や休耕田ではカメムシ類の生息場所となるイネ科雑草が多く、出穂以降、水田へ移動することが考えられる。
- ④カメムシ類は、高温、少雨により発生が助長される。8月までカメムシ類の増殖に好適な気象条件であったため、生息密度が高まっていると考えられる。

2) 大豆

- ①8月中下旬に実施した巡回調査では、12圃場中1圃場でカメムシ類の発生が認められるが、発生圃場率、株当たり虫数ともに平年より低かった。
発生圃場率 : 8.3% (平年: 19.8%、前年: 8.3%)
株当たり虫数 : 0.3 (平年: 0.6、前年: 0.1)
発生圃場では、ミナミアオカメムシが多く、イチモンジカメムシ、アオクサカメムシも認められた。

3) ミナミアオカメムシについて

- ①大豆では昨年から、ミナミアオカメムシによる被害が認められている。ミナミアオカメムシは標高100m以下の圃場ではほぼ全域に生息していると考えられるので、普通期水稲に飛来し加害することも考えられる。
- ②ミナミアオカメムシの発生生態等については、参考資料を参照する。

2 防除対策及び留意点

1) 水稲

- ①穂揃期とその7～10日後の2回散布を徹底する。
- ②イネ科雑草の多い休耕田、畦畔に隣接した圃場では成虫の飛来を受けやすいが、出穂直前の除草は、雑草から成虫の飛来が多くなるので控える。
- ③休耕田の防除は、休耕田で使用可能な登録農薬を使用する。

2) 大豆

- ①大豆を加害するカメムシ類は加害期間が長いので、アオクサカメムシ、ミナミアオカメムシ、ホソハリカメムシ、イチモンジカメムシ等の成虫の飛来が多い場合は、幼莢期から子実肥大期にかけて2回防除を行う。なお、着莢部に薬剤が十分付着するように散布する。
- ②本虫は圃場間を移動する害虫であり、栽培地域がまとまっているところでは一斉防除を行う。また、被害が恒常的に発生する地域、隣接に雑草地の多い圃場では特に注意する。

3) 防除薬剤

- ①ミナミアオカメムシの発生が認められる場合は、合成ピレスロイド系薬剤に対する感受性が低いので、ジノテフラン剤またはクロチアニジン剤を使用する。
- ②大分県農林水産研究センター安全農業研究所ホームページ内にある「大分県主要農作物病虫害及び雑草防除指導指針」を参照する。なお、薬剤によっては、指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、薬剤のラベルに従って使用する。
(ホームページアドレス <http://www.jppn.ne.jp/oita/>)

<参考資料>

ミナミアオカメムシ

1 分布

ミナミアオカメムシは、和歌山県、高知県、九州全県及び南西諸島等で確認されており、昭和30年頃に水稻の早期栽培が導入されてから害虫として注目されるようになった。

2 形態

カメムシ科。成虫は体長12～15.5mm。体色はアオクサカメムシと同様に緑色をしている個体(緑色型)が普通である。ほかに、黄帯型、ふく輪型、緑斑型などの色彩型がある。触角は5節で、第3～5節には褐色紋がある。脚は緑色。付節は灰褐色、爪末端は黒色をしている。アオクサカメムシに類似する。卵は杯形で中心が隆起している。産卵時は淡土黄色、孵化前に赤色になる。幼虫は丸みがあり成虫に似ており、5齢を経過する。

3 生態

成虫は常緑樹の植え込みや生け垣、茂み、屋根がわらの下などで越冬し、4月頃に活動を開始する。成虫の寿命は、越冬期は約7か月、夏には約50日である。産卵期間も長いので世代が重なる。卵期間は5～7日、幼虫期間は25日である。年に3回発生する(アオクサカメムシは年2回発生)。日中に交尾し、その後、葉に産卵する。卵塊当たり平均卵粒数は、第1世代で約73～76、第2世代で83～86、第3世代で97～107、雌は生涯に2卵塊以上を産卵する。成虫は日中に活動するが、走光性がある。

カメムシ類による吸汁で斑点米ができる割合は、本種が最も高い(第1表)。

4 寄主植物

本種の寄主植物は、32科145種が報告されており、主要な農作物は次のとおりである。

イネ科：イネ、ムギ、トウモロコシ

ナス科：ナス、トマト、ジャガイモ、タバコ

マメ科：ダイズ、エンドウ、ソラマメ

アブラナ科：キャベツ、ハクサイ、アブラナ、ダイコン

ミカン科：カンキツ類 バラ科：ナシ、モモ、ビワ

クワ科：イチジク ブナ科：クリ キク科：キク

第1表 斑点米産生能力(川沢ら、1975)

1頭1日当たり 発生量 (粒)	カメムシの種名	
0.51～1.00	ミナミアオカメムシ イネカメムシ	エビイロカメムシ クロアシホソナガカメムシ
0.11～0.50	アオクサカメムシ シラホシカメムシ クモヘリカメムシ コバネヒョウタンナガカメムシ	ヨツボシヒョウタンナガカメムシ ヒゲナガカメムシ アカヒゲホソミドリカスミカメ ブチヒゲクロカスミカメ
0.06～0.10	トゲシラホシカメムシ ハナダカカメムシ	ホソハリカメムシ ブチヒメヘリカメムシ
0.01～0.05	ヒメハリカメムシ アカヒメヘリカメムシ メダカナガカメムシ	アカスジカスミカメ ハナグロミドリカスミカメ

参考文献：ミナミアオカメムシ個体群の生態学的研究(農水省技術会議 1970)、動物の数は何できるか(NHKブック 1971)、原色図鑑カメムシ百種(1975)
なお、カスミカメムシ科の種名は、日本原色カメムシ図鑑第2巻(2001)によった。